

# 琉球大学学術リポジトリ

【《UH・UR合同シンポジウム》報告】 繰り返しがえし：琉球舞踊の精神

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学国際沖縄研究所 公開日: 2014-12-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 高嶺, 久枝, Takamine, Hisaye メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/30141">http://hdl.handle.net/20.500.12000/30141</a>

《UH・UR 合同シンポジウム》報告

## 繰り返しがえし：琉球舞踊の精神

高嶺 久枝\*

### Spirit of Ryukyuan Dance: Repeating One after Another

TAKAMINE Hisaye

#### 要旨

琉球王国時代、朝貢関係にある中国皇帝の使いである冊封使を歓待するために創られた御冠船踊り（宮廷舞踊・古典舞踊）。私を踊り手として解放してくれるきっかけを与えてくれたのが、普天満宮先代宮司で、舞踊家の故新垣義志氏の創作、神楽舞「初穂」でした。この踊りは湛水流（古典音楽の古型）の音曲にのせ、祭式作法を取り入れ、かつて沖縄の村々の祭りを司った神女の姿で踊ります。そして稲穂を持ち、豊作は神の恩恵によるものとして‘初穂’を神に捧げます。

祈りの舞を踊る時、私の想いのベクトルは神聖な対象に向かい、精神の浄化を求め、かつ求められ、透明化していきます。舞の透明化をめざすべく、身体は観客に向かっている時でも、私自身の想いのベクトルは私自身の魂へ向き、または崇高なものへ向かいます。そして自分自身を内視します。その繰り返す行為が純化された精神的な世界へと導いてくれます。

文字のない社会における島の女達は、時として神人になり、白い衣裳をまとって幾日も籠もり、心の内から発する歌と祈りの所作で男達を、子供達を、すべての人々を愛で包み、島の繁栄を祈りました。そして現世と来世をつなぎ、生を豊かに謳歌してきたと思います。

文献にみる「舞踊」に関する言葉には、三つの系列があります。①「遊び」（神女の歌舞や船遊び、祭事における神事的な歌舞、行事をさす）・②「なより」（身振りのつく踊りで手の舞いはこねり）・③「舞い」の三つです。

古代から「舞う」は鳥や蝶が飛翔するさまを表わすときに使います。それらは兄弟の航海を守護する「おなり（姉妹）神」の化身でもあると信じられてい

---

\* 琉球舞踊家、琉球舞踊かなの会会主 Artist of Ryukyuan Dance, Founding President, *Kana-no-Kai* ( *Kana Ryukyuan Dancer's Group* ).

ます。神女達は果報を寄せる霊力を持つとみられ、「舞い合い」「群れ合い」によって波風を和めんとし、鷲の羽でつくった「風直り」を髪に挿し、薄衣装をはためかしてその飛翔するさまを舞います。

神女達が御嶽の庭に降臨し、「なよる」のは、島を「直<sup>なお</sup>す、すなわち和め、繁栄をもたらすためでした。「遊び」「なより」「舞い」は、言葉は違っても、「祈り」という点では、共通の意味合いをもっています。私は現代に生きる者として、女性（姉妹 オナリ）のもつ霊力を表現した作品『風なおり』を1991年に発表し、先達の思いを、祈りの心を舞いに映し出してみました。

現代に生きる古典舞踊は、時と場所を超え人々の生への共通のテーマを表現していると思います。舞う側の無駄を削ぎ落とし、昇華され、透明化された表現は、人々のもつ精神世界に触れ、蘇らせ、心の綾を象徴すると思います。

私は生命あるものすべてに神の心が宿り、その神に生命養われたことへ感謝し、歌と踊りを神々に献じた先人達の智慧と愛<sup>かな</sup>に満ちた心を学びたいと思います。

さらに、芸能に宿る今もむかしも変わらない愛と祈りの精神性を受け継ぎ、これまで培ってきた身体に宿る技と心のリズムで難な表現を可能に出来るようにし、創造・継承の使命を持ちつつ、日々の精進を怠らないように心がけたいと思います。

#### 【 主な思い作品 】

- |       |     |   |   |
|-------|-----|---|---|
| 1982年 | 3月  | ： | 娘美和子の捧げる舞「風譚 <sup>ふうたん</sup> 」（テーマ：大凧と子供達の夢）初演            |
| 1984年 | 4月  | ： | 夫に捧げる舞「きよら」（テーマ：古典舞踊「かせかけ」の前段）                            |
| 1988年 | 6月  | ： | 祖母に捧げる舞「あやかり」・「祝い」  |
| 1991年 | 9月  | ： | 琉球放送創作芸術祭舞踊部門「奨励賞」受賞<br>…「風なおり（テーマ：おなり神）」                 |
| 1992年 | 8月  | ： | 琉球放送創作芸術祭舞踊部門「奨励賞」受賞<br>…「あっちゃめー（テーマ：カチャシー）」              |
| 1994年 | 10月 | ： | 父に捧げる作品「国頭サバクイ」初演（於 神奈川県）<br>…国頭村字奥間出身の父にささげる作品           |
| 1994年 | 11月 | ： | 歴史を拓くはじめの家「うちなー」家びらき<br>琉球舞踊鑑賞会「初穂」他 祈り寿ぎ舞い               |
| 1995年 | 12月 | ： | 天台声明の世界「琉球芸能との関わりを求めて」…「声明 散華」初演                          |
| 1995年 |     | ： | 「世栄え太鼓」初演（テーマ：念仏おどりのエイサーから脱却し、世栄え願いの鼓動の舞い）                |
| 1998年 | 11月 | ： | 北海道アイヌ民族文化祭招待公演（20年来の友情出演）                                |
| 1998年 |     | ： | 「獅子加那志」（テーマ：祭り・守り神）                                       |
| 2005年 | 10月 | ： | 龍宮からサルタヒコへ（猿田彦大神様フォーラム第1席にて奉納舞踊）                          |
| 2005年 |     | ： | 「風夢譚 <sup>ふうむたん</sup> 」（テーマ：我が魂への子守歌）                     |
| 2006年 | 11月 | ： | 1719年首里王府冊封使歓待「中秋宴」想定復元<br>…「毬舞 <sup>まりまい</sup> 」他6題（25日） |
| 2007年 |     | ： | 首里王府御座楽保存会を阿波連本勇氏より受け継ぐ（顧問：喜名盛昭）                          |

- 2010年 2月 : 沖縄の祖神「アマミキヨ」面復元 魂込め奉納の舞  
(於 ミントン城) (25日)
- 2010年 10月 : 幻の楽器「塙篋たてくこ」想定復元 (30日)
- 2011年 7月 : 江戸立ち「路次楽」再現 (初演: 於 キジムナーフェスタ) (23日)
- 2012年 10月 : 南風原町字与那覇区に伝わる伝説「うさんしー」を調査研究し 75年ぶりに復元し主演 (28日)